類聚撰要

定火消
町火消
従享保二
至明和二

73
694
1

類聚撰要巻之弐拾壱

出火場并町火消一件　壱

自享保二年至明和二年

覚

前々被仰出候通、火之元之儀風も有之節ハ不及申、風烈之節ハ別而
手前之火之元を用心、風下之町も屋根之上へ人を上ケ、飛火之用心を
可仕処、近来ハ出火之節行逢候ニ付而家並板戸等持出之儀
相聞候、右体之儀ハ手前之出火之節ハ猶更不及申、町々之者共ハ勿論
出火之節ハ手桶之用意も無之、手桶を持運ひ火消之者を差退ケ候者も有之
候由、畢竟之処ハ不届之至ニ候、向後
以後右体之儀於有之ハ、町々ニ而火之用心を可致、又ハ風下之者ハ飛火之防を可致
可申付候、若右体之儀於有之ハ急度可申付候事ニ候、町中之者共
無油断、右之趣相守可申候、此段町中之者急度可申渡候
以上

酉十月

右之通高声ニ而来朝之外今般撰之誂ニ而其手元之則ち忍ニ而掛を抜き引
相成候得共候処其儀ニ付右之御筋出来候家々迄も入念可申
ニ而被仰渡候ニ付名町中ニ而相心得候者也

酉十月

右之通町中入念可相触候、十月廿日町々名主共喜多村彦右衛門殿判取を申来
其御達ニ而右之被仰渡之趣を申聞ニ而町々迄可相触者也

町年寄　三人

酉
十月七日

右之家之達判元迄

十月十日

一　町々名主共不残御用之儀有之ニ付、今日四ツ時　越前守様御番所へ罷出
候処、名主喜多村彦右衛門殿被申渡候ハ、右之通御触達之上も尚又名主共へ
被仰渡候ハ、出火之節ニ而右之風上ニ御座候町々之町内一同之警固
之町々人足一町限ニ三十人充月行事差添可罷出候、火消ニ而
被仰付候
火消之者共ハ綱ニ而入込候儀ハ勿論御差図ニ而及候節ハ相心得候様ニ可致候
被仰渡候
風上之町々ハ火元之町内へ人足者人ニ而其余之人足ニ而も差遣候ニ付人数
差出候事、町々ニ而其懸ニ而被仰付候ニ付
風下之町々ハ火元之人足三十人ニ而差添有合候人足ニ而可致候
風上ニ無之町々ハ風下之町之人数ニ而も不及候

遠方之出火之時ハ前書之通り火消人足召連罷出候ハ火消方江罷出候
不埒成義無之仕候様被仰付候得共又ハ出火場所ニ而無之候得共捨置
難申候ニ付猶又被仰付候得共心得違仕候者有之候ニ付聢と申渡
捨置無之様急度可被仰付候若相背候者於有之ハ其上ニ而吟味之上過料
此上ニも無油断可相守旨堅可申渡旨町人共ニ茂申含候様可被仰付候
候様ニ

町々申渡覚

風烈之節ハ町々ゟ番人壱人充申付置候程之者若町方ニ而出火有之
候ハヽ其町之番人ハ風上弐町風脇左右弐町都合五町ゟ出人足十人ツヽ相極
早速駈附消留可申候尤小家根ニ者水を懸ケ引壊消留メ可申候兼而
有合候階子手桶細引掛ケ矢揃置可申出火之場所江可持
出し置火消役人見分可致候程之義ハ風烈之節ハ町方

商売等ニ而参候者ハ火附之義ニ付遠慮ハ吟味之上急度可申付候
為其与力同心共江申付事候但火消役人之場所ゟ罷出候節ハ其者を改候様可申付候
一風烈之節ハ町々ゟ右之通り番人相廻可申候若怪敷者ハ町人共ニ而捕置可申候尤商
売之義ニ而も怪敷候ハヽ召捕置候而直ニ町奉行所江有合候者ハ無用捨可召捕
出入ハ寄合無遠慮猶又其吟味之上急度可申付候与力同心共ゟ
右之趣可申付候
一出火之場所ニ而町火消掛リ候ハ其外火消方ゟ右人数上させ町人共ニ而為致
火消方為致出火之節ハ相改候
消口等之儀
一町方掛リ候階子持出し火消等ニ付
階子等之時も火消方ニ而階子等を下ケ
申候様

一 惣して家々井戸水溜等之事、火消道具之儀者、前々相触候通、無油断可相心得候

相守可申候

一 寺町之人数、月番之ものゝ外ハ会所へ集、小頭・夜番之者へ申渡、其外ハ触置可申候

一 火附人数之内ゟ役人壱人、其外ハ跡之者之内ゟ壱人宛、町々火消へ可申付候

右之通急度相守可申候、万一於疎略ハ、不依何事越度可申付候

町火消等之場所ゟ早速駆付候而も、自然遠慮及延引候ハヽ、不埒

越度可申付候事

戌十月

右之通被仰渡候所、御書付之通急度相守可申候、然者町々之庄屋人数

役人共へ申渡候而、有合之人数へも御付人数相揃候而付候者、違

無之様相守、町中申渡し候而、弥急度可相心得候

十月

右之趣申聞、町中名主・家主へ申付、右之通可被相心得候、人数

急度見分可申候、若違背之族於有之ハ、何様とも可被仰付候、為後日

町中連判之證文差上申候、仍如件

享保三年戌十月

御奉行所

十一月十九日

一 今日町々名主共被召出、御奉行様ゟ被仰渡候ハ、当町々ニ而火事之節者、出火所江駆付

家主共ハ、町中家持共之儀ハ、御奉行所ゟ被仰付候間、今程

出火之節、火附人足召連駆付、町々ニ而於付候者、町方之者も有之候而

右ニ付

御公儀ゟ御用ニ付出府被仰付候ニ付相勤来候所此度中番御免
被成下候ニ付名前之通中役之帳面ゟ除被仰付候町年寄衆ゟも御免被成候
條以上

一 中役之儀有之候ニ付此町ニ名前之者共年寄衆ゟ申付ニ而右名前之者
共町々ニ而月番ニ而右之者共相届可申候以上

十月廿五日

右之外諸役人年寄共江申渡候処右名前之者共場所人ニ而相勤申候
人足無滞様名前之者共江申渡候

覚

一 御用之儀有之候間右四町之名主中今五ツ時

越前守様御番所江右之者共召連御月番ニ而何も連
可申候以上

十二月廿日　町年寄　三人

一 此度付年寄共ニ被差置候 御奉行所ニ而被仰渡候ニ付名主共
其外之町々場所組合ニ被仰付候ニ付組合名主町々ニ而申中可申候
ニ被仰渡候趣組町年寄共承知仕候ニ付被仰渡候

一 今日年寄共居宅ニ而申渡候ニ付一統 御番所ニ而被仰渡候通
組合名主町々為申渡候右組合町々ニ而被仰渡候
右之外諸場所町々江覚

瀬戸物町　伊勢町　瀧山町　大和町　檜物町　三ヶ町
新革屋町　新石町　塗師町　元乗物町　鍛冶町　三ヶ町　同新右衛門

九軒町　白壁町　松田町　鍋町　鍛冶町二町　通新石町
須田町二町　連雀町　佐柄木町　竪大工町　田町二町　新銀町
永富町三町　皆川町三町　蝋燭町　関口町　横大工町
三河町四町　三丁目裏町　四丁目裏町　雉子町　四軒町迄

右町之内ニ出火有之候ハヽ早速駆附候様ニ可申渡候　且又所々ニて
若武家屋敷ニ出火有之候ハヽ火付御用ニ不任候ハヽ向寄小柳町　平永町
新革屋町　松永町辺ニ而候ハヽ出火元ヘ大勢有之候ハヽ出火附無
用ニ候様ニ可申渡候

一　町々出火之節ハ唯今迄之通組合之内駆付候　併通候而火
元ゟも遠く風上成町ハ風下成町ゟ右之町ハ先達而申渡候
之通ニ付消ニ者不及候　寄合集り候ハ人数ニ成候而も町々
三十人ニ減三十人ニ成候而不為指支次第　其外ニ者人数を
依三十人ニ成候ハ中々不足候ハ人数者併候而余り有之候而大
之通ニ而或者風下組合之外之町ヘ出火元ヘ人数召連平組合之町
切ニ風筋并最寄ニ集り防可申候　組合之外之出火元ヘ大勢集り候儀
無用可仕事

一　縦出火消人足之儀唯今迄之通ニ而組合之内ニ而も出火元ゟ大勢不集火
事場之様子を見合不足成節ハ[illegible]火元組合人足[illegible]
申候　右組合之儀ハ此度委細申付候間中[illegible]て申候[illegible]

一　戌十二月

右之趣通り組合之内中ニ申付候町中ヘ相違無之様申談可申候
為後日町中連判仍如件

享保三年戌十二月[illegible]日

御奉行所

右之通申渡十二月十七日喜多村殿へ納ル

十二月十七日
一 今日喜多村殿ゟ差紙ニ而罷出候処出入新肴町久次郎并喜多
町小間物屋共糺候処相違無之候ニ付組合之内へ申聞候様申合
明後日迄ニ申上候様被仰渡候

十二月十八日
一 浅田屋之内小間物屋町々右取調并申渡之儀申上候 中山出雲守様江書
付ニ而申上候処町々小間物屋組合之者共ゟ月行事ニ而申上候趣を以て差出候様
十二月十八日 町年寄之
 所々小間物屋之者組合町々ゟ取調月行事共書上候様
此段申渡し候旨被仰渡候

一 右一組之者共名前月行事今日八時迄ニ差上候 中山出雲守様御
書付ニ而申上候処右之者共別紙之通差上候ニ付有合之者共以上

町々名主 之人

十二月廿四日

近頃ハ出火之節ハ[illegible]むざと打寄候者も有之
町中之人足集り[illegible]差支ニ相成[illegible]通風上[illegible]
以来右火事之節ハ[illegible]速火消[illegible]町々[illegible]
兼而申付候通[illegible]むざと打寄[illegible]火消人足
[illegible]用ひ[illegible]人足共[illegible]急度[illegible]付候

覚

火事之節火附盗賊改方ゟ寺社方[illegible]町方近所ゟ[illegible]寺社方
町方并盗賊改方ゟ[illegible]寺社方[illegible]町方[illegible]
以後ハ中合候共[illegible]相守[illegible]
候ニ而も右之通心得候様町中名主共ゟ急度可申付候以上

十二月廿六日

町年寄 之人

享保[illegible]年亥十二月十七日
一今日[illegible]出火ニ付[illegible]南風[illegible]橋等
車ニ積荷物[illegible]向後右様車ニ荷物積候儀急度停止

[illegible]之節

覚

一当二月廿四日[illegible]
[illegible]火事場[illegible]
[illegible]町々人数[illegible]
[illegible]
[illegible]町々[illegible]
[illegible]

之月[illegible]

年番

本所下谷浅草筋ニ而出火之節柳原土手内并浅草川向ニ而出火之節防方
之儀右寺社ニ而夫々相達置候ニ付通達候自今右之筋より出火
之節も町内之者附添之類町々中合壱町ニ而も不残罷出候様ニ付桁子持并番組
橋迄罷越候節者町中所々ニ而罷出数々之場所纏持共加勢いたし候ハヽ
難儀ニ而も出火之者町内通用相成候小屋掛ニ而出火之場所ニ子共迄
川筋ニ而消之平日者町火消之者共ニ而出火之場所々心得候而
違背致間敷候右之趣町人共急度申付置候
右之通町中急度申付候出火之節火防方之儀商売人相手ハ至而出精可相勤
之風烈敷時節等ニ而ハ右之通相心得候小火ニ而も早々掛集
平日風烈之節ハ右之町中火元之者共召集候得共不及ニ付申付
精出候様早速出火防方之儀相付并人数召連罷出候様可申付置候

以書付申上候

正月

本町筋下谷筋ゟ出火之節北風ニ而柳原土手内ゟ出火致候ハヽ纏防方之
儀前方申渡候組合並ニ小川町辺ニ而風上之町々ゟ町々人
数召連罷出候様并纏防可申候、纏ハ浅草御門内并次町ゟ鍛冶町辺迄風
下之節ハ豊島町松枝町辺ゟ佐久間町辺佐久間町神田富山町松田町白
壁町辺須田町鍋町辺迄風上之町々ゟ人数召連防可申候、此外町々
町々ゟ風下之節ハ風筋見合并ニ組合之外之町々風上之町々ゟ人数
召連可申候

但前之町筋ニ而持場之中程ニ而町之為流候ニ付ハ無之候

一筋違橋ゟ西之方本銀町ゟ四丁目辺迄風下之節ハ本石町ゟ四丁目内ニ而
出火防ニ相越候風筋見合風上風下之町々ゟ人数召連可申候

一筋違橋ゟ東之方柳原土手内ゟ出火之節ハ召連本石町通四丁目
ニ而本町上之浅草辺迄風上之町々并風下之町々ゟ人数召連防可申候

一本銀町四丁目南ゟ出火之節ハ中橋広小路ニ而風上風下之町々ゟ人数
召連防可申候

但中橋広小路之南ゟ出火之節ハ京橋広小路ニ而防可申候

一場所ニ寄候ハヽ人数之支配之者ニ而無之候而も火ニ寄候ハヽ其場所ゟ
支配之外支配人数も指図働可申候、此者其外支配之町人共へ兼而
申付置候

一浅草御門向之方風上之節ハ同所ニ而可相心得候

右之趣風烈之節ハ町々商人職人共迄も不残相守候様可申付候以上

子正月

右両様之儀火事有之先達而名主共ニ申渡候ニ付猶亦遂吟味候而町中ニ而も右
町中家持ハ不及申借屋店借裏々迄着類迄仕廻ニ為致早速可及意
度ニ有之事ニ付兎角火附之人数も支配名主とも申合名主共名
主共見届之上又ハ精出し御用事之儀を能々承知仕可相勤事ニ而追而懸合申付候
候而後日町中江者到来之節急度上ニ而も仍如件

享保五年子正月十五日

御奉行所

右之通同十五日在村役所へ相納ル

享保五子年八月八日奉行所ニ而被仰渡候

一 火事之節防方之儀ニ付去々年組合相極候処其外組々ニも入交り候付場
所近合組合之儀も改新ニ人数を増候而防方相違有之候ニ付此度組合を割
直し組合申渡候間兼而申合置火事之節其町ニ而も同所之者共相救
合候様ニ相守組或者十字中付防方之掟可被成候
書記組合ハ申付候而其組合之組合ニ而相勤候様可致候
土付合候者共ハ場所ニ而差図次第可仕候事

一 右同所之組合小組之儀も組合之名主中会所ニ而相談之上
火事之節ハ組合之内壱ヶ所風上之場所ニ而申合建置可申
組合ニ而右組合之内申付候方江参り火消人足共中組ニ而防き可申候事

但火事之節組合切ニ火防他組合之儀ハ無用之事

一 出火之節武士屋敷ゟ一切人足不差出候事

一 両番本船町火消人足防候て組合之者揉事之人数差出候て自儀相止候事

一 出火之節火元之風上并風脇左右并究役合之町々ニ而差出候方

本船町通り于近火集り消留可申事

附 右之町々ニ而是迄組合之外ニ而火元欠付候ハ不及申事

右之趣町々名主共相談之上町人共も異ニ申すまじく一同ニ而差遣候

相定候て一統へ申談候上

子八月

覚

一 組合之目印 竪大のまとい 壱本

横幅八寸 長サ五尺

一 同 横のまとい 壱本

横幅弐尺 長サ七尺

一 横のまといニ上字組合之大纏付ケ横のまといニ書候文字書入レ可申

東ハ 何町ゟ何町迄

南ハ 何町ゟ何町迄組

西ハ 何町ゟ何町迄

北ハ 何町ゟ何町迄組

一 竪のまといをもまといに用候のまとい斗ニ致候ハ、并記候名を左之通り

一 くみ合之町中之火事之時ハまといかけ候所ニ持参可申候

一 くみ合ニ而も火事有之候くみ合之町々風下之所之時ハ

さし置候所ニ持参可申候

一 組合之町人下知なくして内くみ合之まといへ一切まいるましき事

一 組合之十町余ニ而満之内大のまとい或は究之十町ゟ内ニ而まといはん

一 本大のまとい一本立て候ハヽ竪のまとい横のまとい共ニ大まといニ文字書記可申候

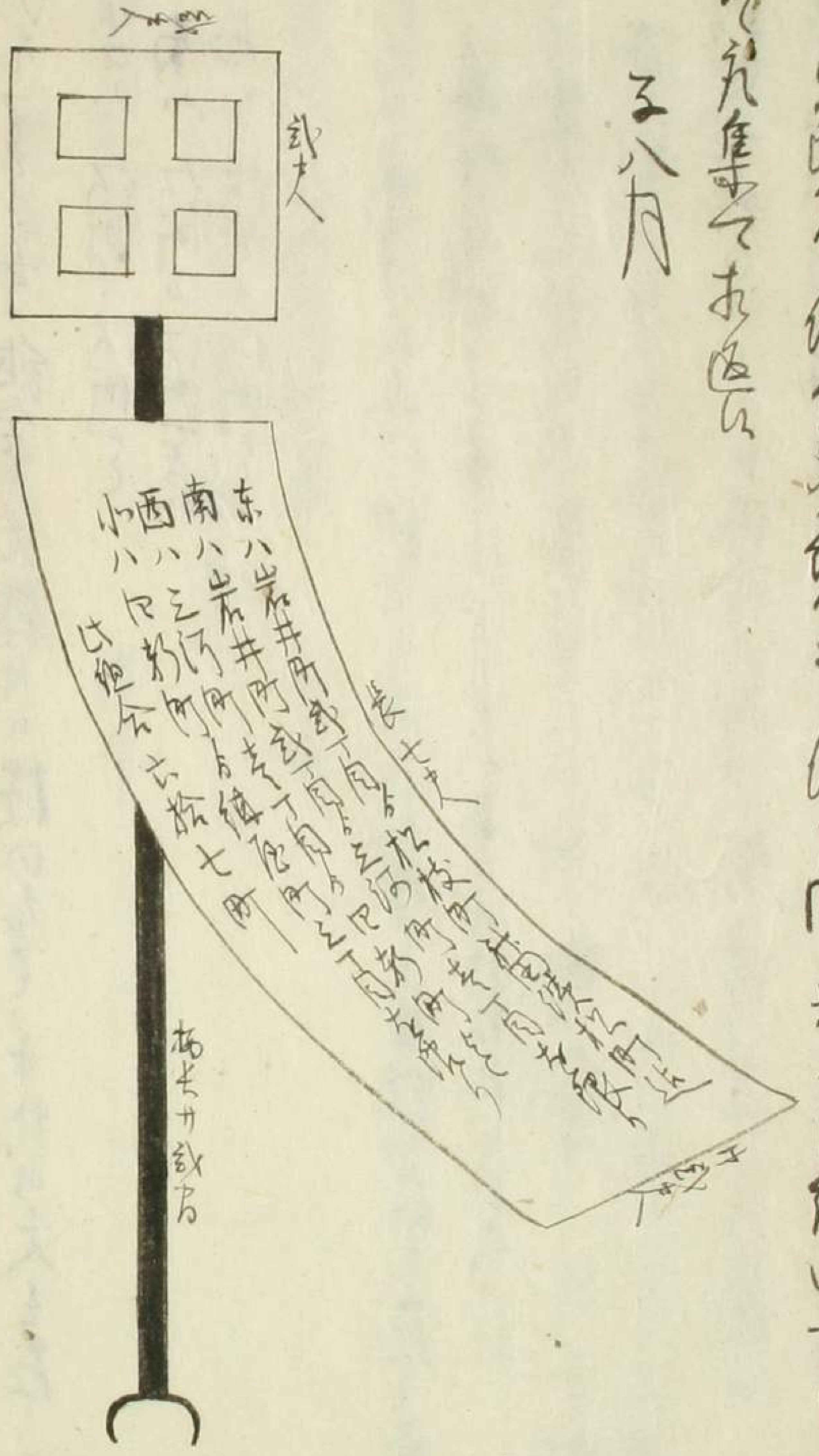
一 右のまといハ何も紙地ニ書文字白ニ候ハ、漆ニ而文字すミ入可申事

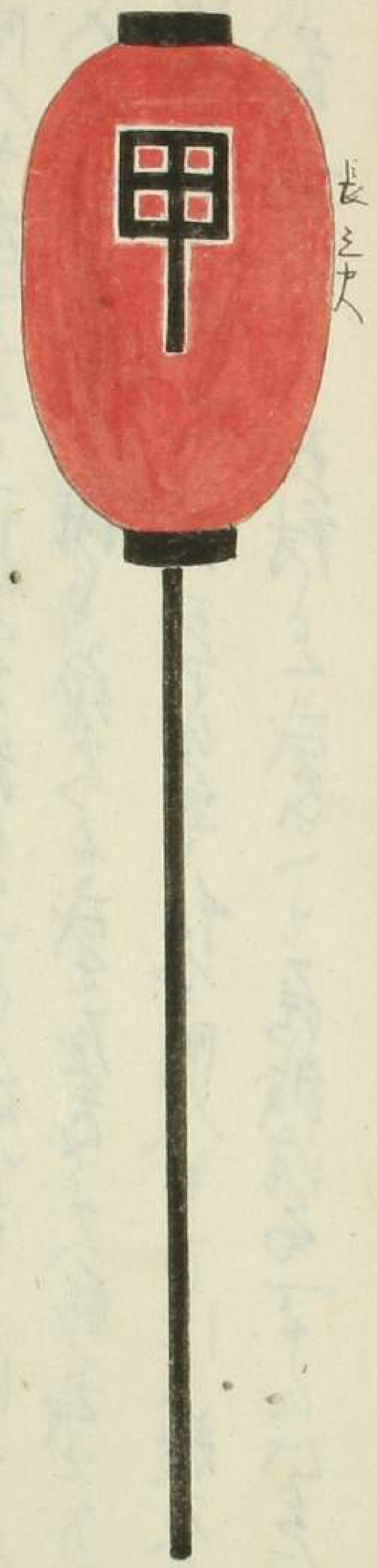
可被成候

一 只今迄有之候火消人足共向後相止可申候事

一 第一火防方之儀ニ付、又ハ組合申合候町々相定候絵図之通
之迄見合て相済候

子八月





右纏挑灯大サ之儀八月九日本所回向院東門際ニ而右之方へ寄
合相渡之上事済候段御届申上候

八月十七日 神田明神社地ニ而加賀様方へ寄合相渡シ候

一 火消人足共之儀

一 町々小纏纏印之字只今迄有来之通付置申事

一 町々纏挑灯の文字掉高サ弐丈余ニ付大纏高サ弐丈余

一 小纏並挑灯掉高サ九尺ニ可仕候事

一 組合町々之人数之事

重テ申候右組合之重ニ候町名小紙挑灯并書付申候事

一纒之儀者銘々町数ニ付一本町ゟ明六時ゟ翌明六時迄一日一夜
宛相定申候纒番之儀申候内要人有之候ハヽまとひ有之候町ゟ
受付申候右出火之節早速請取次之町へ相渡可申候尤大火之節ハ一日一夜
掛り候共場所仕舞候迄次之町ゟ相渡可申候纒請取候節ハ場所ニ而取候事ニ
御座候ニ付其上場所ニ而受付申候

子八月

八月十九日夜五ツ時頃出火之節
組合之町人共武士方見ハ一切集置数多見合有之故町付十分組合
組合之入組ニ火事之節ハ夫々火消武士方ニ相成火事場之武士方ゟ
勢ニ而防留候ニ付候節火之不可之申候組合町人共自ら相離及候ニ付
尤相候ハヽ武士方ニ而相尋候上武家方ニ而取鎮済ニ而申候以後町之

右之人数御座候以上

子八月

上組町数之覚

百拾九番 鎌倉町 家持 廿四人 合 弐十人
同五番十六番 同横町 家持 十七人 合 十人
同五番七番五番 新肴町 家持 八人 合 十五人
同四番 大和町 家持 廿人 合 十四人
同番 松下町七丁目 家持 八人 合 十四人
同 弐丁目 家持 十人 合 十五人
同 三丁目 家持 十弐人 合 十四人

百四拾七番地 仁杉屋鋪 家数四人 人口十五人

同百廿八番地 三河町壱丁目 家数廿三人 人口三十人

同廿四番地 養安院屋敷 家数壱人 人口五人

同百三番地弐番半 三河町弐丁目 家数廿八人 人口三十人

同百三番地七番 同 三丁目 家数廿五人 人口三十人

同四番地弐番五人 同 表町 家数六人 人口四人

同八番地三番 同 四丁目 家数廿壱人 人口廿壱人

同三番地八番 同 裏町 家数六人 人口三人

同百番地五番 雉子町 家数三十人 人口三十人

同四番地 四新町 家数四人 人口三人

同九番地壱丁目 永富町壱丁目 家数十壱人 人口廿人

同六番地弐番 同 弐丁目 家数十壱人 人口十五人

同百弐番地六番 同 三丁目 家数十八人 人口三十人

同四番地六番 同 四丁目 家数五人 人口十人

同五番地五番 皆川町壱丁目 家数九人 人口十五人

同九番地九番半 同 弐丁目 家数十六人 人口廿人

同四番地弐番半 同 三丁目 家数八人 人口十八人

同三番地之方 蝋燭町 家数八人 人口十弐人

間数拾弐間 関口町
家守八人 人足十人

同七拾五間 横大工町
家守十八人 人足十八人

同百八拾八間 新銀町
家守三拾八人 人足三拾人

同九拾八間 佐柄木町
家守廿九人 人足三十人

同七拾八間 新革屋町
家守十八人 人足十七人

同百弐拾弐間 新石町壱丁目
家守廿八人 人足三十人

同四拾間 塗師町
家守九人 人足弐人

同七十四間半 元乗物町
家守十四人 人足十五人

同拾五間 四人 兵庫屋敷
家守壱人 人足弐人

同百拾弐間 竪大工町
家守廿七人 人足三十人

同百拾六間 多町壱丁目
家守三十人 人足三十人

同百拾間 同弐丁目
家守廿弐人 人足三十人

同九拾間 連雀町
家守十八人 人足三十人

同百弐拾間 鍛冶町壱丁目
家守廿七人 人足三十人

同百廿弐間 同弐丁目
家守廿三人 人足三十人

同百廿間 鍋町
家守廿六人 人足三十人

同百廿間 同横町
家守三十四人 人足廿七人

同百弐拾間 通新石町
家守廿弐人 人足三十人

同 六百弐拾六軒 須田町壱丁目

同 百三拾壱軒半 同弐丁目

同 三百弐拾軒 佐柄町壱丁目

同 百三拾壱軒 同弐丁目

同 百拾三軒 同横町

同 百弐拾八軒半 同三丁目

同 五百弐拾軒 九軒町

同 十弐軒半 本銀町四丁目

同 百弐拾三軒 白壁町

家持 百拾五人
人合 千百五拾人

家持 弐拾三人
人合 三十人

家持 九十八人
人合 三十人

家持 廿六人
人合 三十人

家持 十人
人合 十七人

家持 三十一人
人合 三十人

家持 九人
人合 十七人

家持 五人
人合 三十人

家持 廿七人
人合 三拾人

同 六拾三軒 松田町

同 廿七軒 三嶋町

同 四十三軒 永井町

同 三十六軒 岸町

同 百廿一軒弐尺 富山町

同 廿五軒 濱松町

同 百七拾七軒 平永町

同 百五軒三尺 小柳町壱丁目

同 九拾弐軒三尺 同弐丁目

家持 十六人
人合 十六人

家持 十人
人合 八人

家持 拾弐人
人合 拾人

家持 拾人
人合 三十人

家持 三拾人
人合 三拾人

家持 弐人
人合 弐人

家持 廿九人
人合 三拾人

家持 廿人
人合 三十人

家持 十七人
人合 三十人

間数九拾三間弐尺六寸 同 三丁目
家数 十六人
人数 三十人

同 百拾八間 黒門町
家数 八人
人数 十五人

同 百七拾三間 松枝町
家数 十九人
人数 三十人

同 拾六間四尺 小泉町
家数 弐人
人数 拾人

同 五拾三間四尺九寸 岩本町
家数 七人
人数 十五人

同 百九拾三間 岩井町壱丁目
家数 廿九人
人数 十五人

同 百弐拾三間 同 弐丁目
家数 十八人
人数 十五人

同 拾四間四尺 横山町代地
家数 弐人
人数 三人

同 六拾三間 久右衛門町弐丁目
家数 十四人
人数 十五人

同 四拾四間 佐久間町四丁目
家数 九人
人数 九人

同 弐拾四間 元柳原六丁目
家数 六人
人数 拾人

町数合七拾弐町也
右之内町名之所ハ是迄之付通ニ而五町分を引ニ六十七町ニ積メ
寺院屋敷ハ清浄納ル
間数合五千八百四拾六間三尺三寸
家数惣合 千百弐拾弐人
人数之惣合 千三百八拾人

八月廿七日
越前守様御当番所町中名主共不残呼出於御内寄合被仰渡候ハ
町中火消人足欠付之儀委細書付差出候所右之通ニてハ先達
而人足之儀大ニ不足之様ニ被存候、附分人足不足ニ付急度可
被仰付候得共、此度者書付之趣ヲ以来月朔日ゟ急度欠付人足之
儀前々之通相心得候様可仕候、何レ茂相改其沙汰可有之候、尤
右之様ニ可被仰渡候
八月廿八日年番小石橋丈太郎日比ニ而年番名主奈良屋ニ而被仰
渡候由、右者先達而欠付人足之内御改役方ゟ被仰渡候ハ、右此度掟等御改被仰付
力飛高橋吉左衛門支配縄懸ヶ出沙汰致人足ヲ高御改之上此者先名主支配之上
此通人足之高不足無之様ニ可仕旨被仰付候旨申来候

上 頭纏順番

九月朔日
之河町 壱丁目
吉安源左衛門
佐柄木町
鍋町
同 之横町
照治町 壱丁目
同 弐丁目
永富町 壱丁目
同 四丁目
同 三丁目
堅川町 壱丁目
同 三丁目
同 弐丁目
蓮倉町
同 横町
新宗町
大和町
四郎兵衛

松下町壱両
同　弐両
同　三両
三河町三両
同　喜町
三河町八両
同　表町
雉子町
同新町
新銀町
新革屋町
新石町壱両
塗師町
元乗物町
岩井屋敷
多町壱両
竪大工町
蝋燭町
関口町
横大工町
多町弐両

三河町弐両
合弐十九両　右壱千百一両完
九月朔日
同　佐柄木町壱両
同　弐両
同　横町
同　本銀町四丁目　三十七ヶ所
小柳町壱両
同　弐両
同　三両
平永町
連雀町
三　旅籠町
新田黒門町
久右衛門町弐両
佐柄木町三両
丸新町
松田町
白壁町
永井町
岸町

富山町
濱松町
佐久間町壱丁目
元柳原六丁目
横山町 代地
松枝町
小泉町
岩本町
岩井町壱丁目
同 弐丁目
通新石町
須田町壱丁目
同 弐丁目

合弐十四組 大夫町ゟ一日一夜宛

一 新金弐両三分 纏のまとい挑灯諸事入用之儀

纏弐本代

一 銭拾貫文

竪のまとい弐本
横のまとい弐本

一 金三分二百文 のまとい柄弐本

一 銭弐貫八百文 てうちん二張代

一 金壱分弐百文 同 縄弐ツ

一 銭五百文之積弐文 らうそく箱二

一 同弐百文 纏箱番看板

金壱両三分銭拾二貫八百文之積弐ツ

銭六貫文之積壱貫七百五拾六文 二貫七百文程

惣間数五千八百二拾六間之分之寸 小間ニ付銭五文之割懸ケ

一 銭六百二拾八ツ 百拾壱町 三河町壱丁目

一 同弐百之積六ツ 二千二百五人 同 裏町

一 同二百文拾六文 八千三百 三河町四丁目

一 同 弐百拾文 三千八百 同 裏町

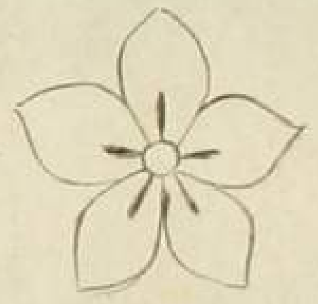
一 同六百二拾六文 百千五百 新石町

一 同弐百廿文 二拾壱 二新町

大八神田ゟ高小友橋まて見廻り中

一九月十六日高橋主水太夫殿上組頭取被仰付候、右御書付被仰渡候

よ組　千組
に組　世組
は組　す組
か組　ほ組
い組　も組
ろ組　め組
百組　一組



但頭取高橋主水太夫殿
借之者被申付候
是迄之通

高橋主水太夫殿
平塚伊左衛門殿
加藤勘助殿
磯貝治左衛門殿
淡路左衛門殿
由比八九郎殿
生田善兵衛殿

九月十八日　御奉行様より御召出ニ而被仰渡候事
火事之節町中組合ニ而先達而被仰渡候趣ニ付町中出火之節
人数之儀并一ヶ年之内度々風烈之節一組ニ而御目付之者
合之者致方(?)右之者共も一組合之内ニ而
下ニ而火元并来候儀致方も有之候ハヽ他町之者致方も手前ニ而今般之儀
平日之名主其町々組合之内へ為申入念入
篤と相心得可申候以上
寅九月
右之通被仰付候ニ付九月十八日御役所ニ而被仰渡候、何も名主共、火之元之儀念入候様可申付候以上
村次平太郎
平田次右衛門
新屋市左衛門
三河町壱丁目
月行事
瓜生六左衛門
本村市郎兵衛
新屋茂八
三河町弐丁目
月行事

九月廿四日寄合参門一統同様申合候

一 かまと上塗上同様塗替并新規かまと火棟ハ取く境仕切塗替之事ハ為相済申間敷候、上ニ有之かまとハ古ノ間ニ無用ニ申候、塗隠申間敷候

一 二階くまた橋ニ懸候事無用無之事ニて、当分棟ハ請乞之者ニ而

小荒権右衛門
川波十兵衛
上田小十郎
佐橋東伴右衛門
久保今十郎
恩地惣兵衛
竹内吉右衛門
大鳩惣十郎
宮地又九郎
吉村七右衛門
小西甚右衛門
村田平右衛門

長野助右衛門
西村次郎兵衛
大久保茂兵衛
宮田川利右衛門
橋本伴右衛門
岡田吉郎右衛門
石川勘兵衛
加藤伴右衛門

格別致シ申候也、消炭ハ二階床下ニ積置申間敷候

一 竈之儀ハ無用、本屋建家ニ掛候物置ニ付申候ハヽ、右之所迄無之ニ付而入置申間敷候様ニ仕切、之一申候ハヽ、住居ニ而家を改可申事

一 裏ニ屋根通シ下ニ火棟取候ニ付、屋根之上ニ取付申候住居之儀、見合可申ハ、不足ニて候事

一 屋根屋橋物屋指物屋之外かんなくずの類有之候ハヽ、くずなど木ぎれ大分二階并棟ハ請候付不用心ニ有之候ニ付、地掛合之上棟ハ請候、四年程之入置候事ハ勿論棟之内ハ人数不申候、掛之候、之事申付候、大工之外も掛々火之用心棟ハ掛之屋根之上、用心之者共中ニ而見合可申付事

一 茶方之十人之通り、寄合之上等ニ而、請負之者之屋根へ差置申候時分も、安き様に相致申候事

一 裏店之者并家主之表口、通り火之元続之用心、家主又ハ向隣之共ニ而も

縫をこのけ申事并新規に是又前々之通り堅く申付候、不浄法被候も
以て高張ニ而も致候との不念ニ候ハ、急度伏て可申上事

一 風呂の儀ハ二階ニ一切火ハ焚申間敷候、尤も火の用心仕候て近所え致
可申候、尤も二階ニて火焚候ハ、其者を召出し可申候

一 表にてせまき所ニ而も棚の上ニ板を焼上置候事无用ニ致候事可申ま
常ニ表店ニ而家主を召次第之事

一 挑灯を用ひ申候、蝋燭ニ火消候ニ付再度ニ火致申候、附り火おこし候事小挑灯
不念かまどの上ニ置て申候、他所ニ而も兼而かまどの上ニ置申候

一 持傭ニ而も稲ニ致し燈用ひ丸物ニ而も焼明ニ而火ハ無用ニ候
本持傭ニ而も稀ニ囲ひ申ニ而も少く申候火ハ焼明不念ニ而不申候

一 馬持ニ而も焚火ニ而小屋をも張ニ而申火焚ハ家屋丸太又ハ申候
仕候事

一 箱中故違火ハ焚ハ不念ニ而風呂付ニ而ハ無油断付置申候、並敷居之内ニ候
ニ而火紙燭入申候事、茶ニも紙張障子ニ而も申候

一 町屋ニ而も火をともし申候事ハ不念ニ而手下ニ而も堅く申付候事

一 土蔵ニ而も焼籠ニ火を置申候、仕舞之火をも致し申候、然候
新ニ而も無用ニ而棚ニ座敷ニ而も不念ニ而下ケ申候
店ニ而も火を元用心ニ而も縦横ニ而も無用心ニ而有之ハ
張面を懐中致し候事、書面之通り急度申付候て可申
同役ニ而も一帳ニ而不念之旅有之候而書付候而差出可申事

享保五年子九月廿四日

一 出火之節小挑灯を持ち火之元用心ニ而下ハ出させ候付て伏せ付候事
ニ出火之節ニ而も不念之ためニ而出候ニ而能々申候

一 出火之時ニて同役ニ而何方ニ而も寄合ニ而申付て可申達候事

十月朔日町奉行所ゟ御呼出ニ付罷出候処、大勢人足
差出遣し候ニ付、御褒美として銀[illegible]被下置候
酒肴代[illegible]いよや作右衛門方ゟ御会所江相届申候

以書付申上候

一 今般町火之元見廻り御付人足大勢差遣候様被仰上候付
御手当御座候ハヽ早速出来候様仕度二三人宛合壱人完宿ニ而通火之
元之用心ニ相用候様仕度候間、御手当御座候様奉願上候
[illegible]妻子共[illegible]
御府内之[illegible]、右十人宛相[illegible]
[illegible]一組之一通り相[illegible]
差上申候人数[illegible]

子十月

名主

一 纏持半天着之者不及候、会所ゟ人足差出し候事
一 纏番之者ハ町内ゟ人足之頭人相勤候様不及候事
一 纏番之者ハ町内ニ而月行事相勤人足ゟ早速組合ニ相届候様
一 法被之儀ハ仕立候而番ハ人数之通仕立候様、夫々ニ相届ケ可申候
右之通[illegible]被仰渡候ニ付、御請申上候事

十月十八日
一 [illegible]様[illegible]名主不[illegible]
[illegible]十[illegible]
[illegible]

十月廿日[illegible]

一 [illegible]
[illegible]

是迄ハ紛敷人数有之下ニ而ハ紛敷町ニ而勝手次第出火之節ハ
委細之儀ハ中談候ニ付、本町名主より御番所江可申上候へ共、只今ハ依之
右之通申候ニ付、此節年番名主之内より申合
一大鐘之儀ハ今晩明六ツ時ゟ相止、四ツ時ニ而相止候節
六ツ時迄ハ有之候而、其上町々之鐘不残打候ゟ鳴候ニ付而ハ
来月ゟ只今迄之通り明六ツ時ゟ打候而ハ相止可申候
右之趣被仰付候様ニ奉存候

覚

一町人之儀ハ夜中ハ人数少ク町内ニ而相止候ニ付
右町役人之内壱人見廻り火之番致、
月番年寄ハ出火之節ハ火元ゟ付可申事

右之通町々名主月行事江申渡候様ニ可申上候以上

巳二月

右者町之鐘撞候儀相止、町中家持ハ勿論借屋
店借之者迄急度申付、町中連判之上
差上申候御事

月日

本町樽屋藤左衛門

覚

一町方ニ出火有之、拾間程焼失又ハ隣家迄焼候ハヽ其名主
月番年寄ニ而不及申、其組合之名主ハ火元へ相詰、其外組合之内
江百人程召連候而出火之節ハ相詰可申事

大八年番組次第之割左之通上帳ニ申来ル

當年組合之儀右者數寄屋通町西側之河岸町迄ハ西之組合ニ付東側ハ岩井町迄ハ東之組合ニ付東之組合ハ一番ニいろは付組合ニ小構ニ付一構ニ二与力凡一人同心凡弐人添出候ニ付西之組合ハ小構無之候西之組町々人足ハ東之組同断人足ニ付候ハ

一 鎌倉町
　 同横町　　人足壱ツ構助合

三河町壱丁目　れノ構内

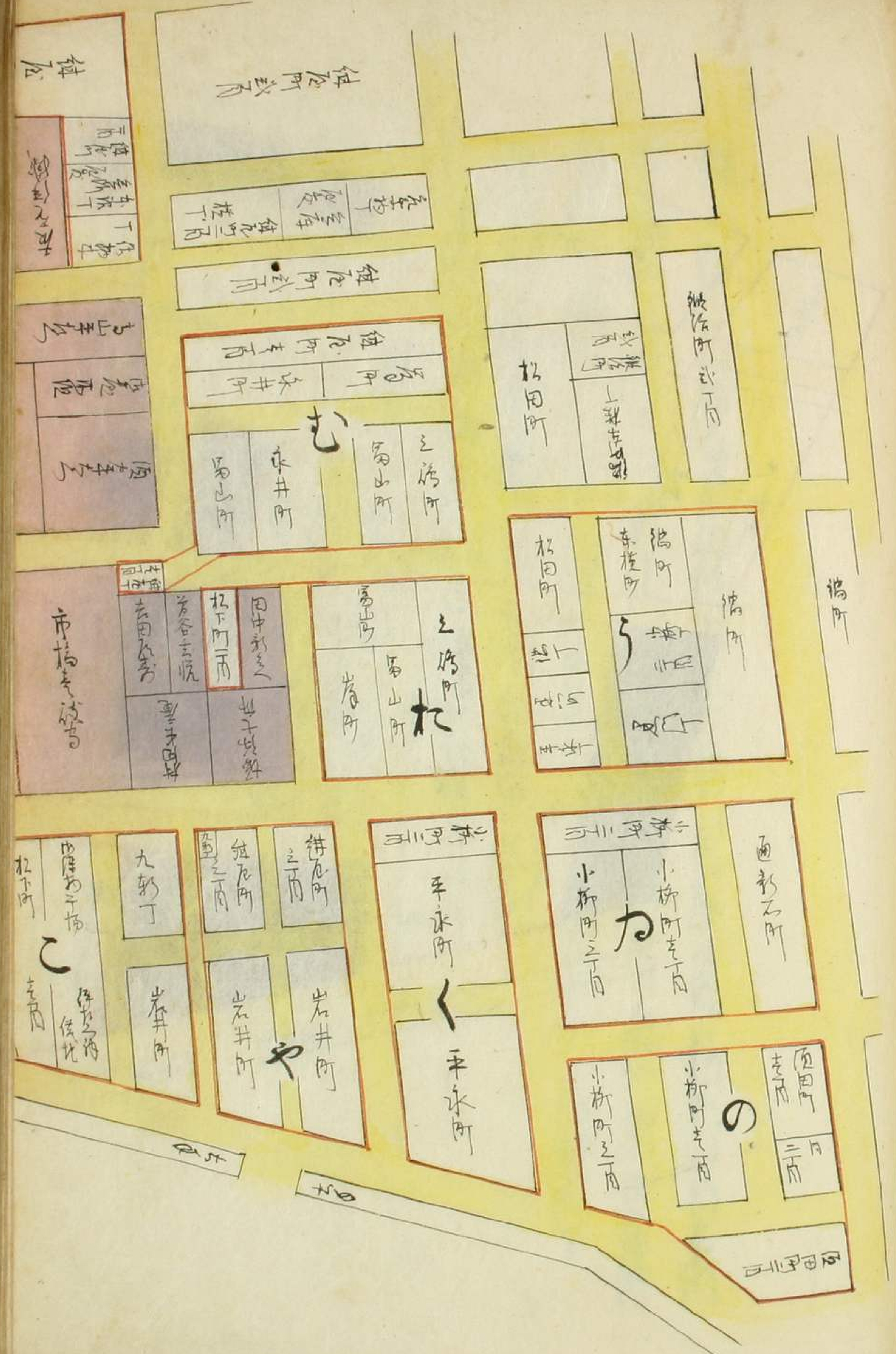
同　弐丁目　やノ構内

同　三丁目
同　嘉所　　こノ構内

三河町四丁目
同裏町　　まノ構内

備猪町
関口町　　ゐノ構内

横大工町代地
かノ構助合　　に組之内



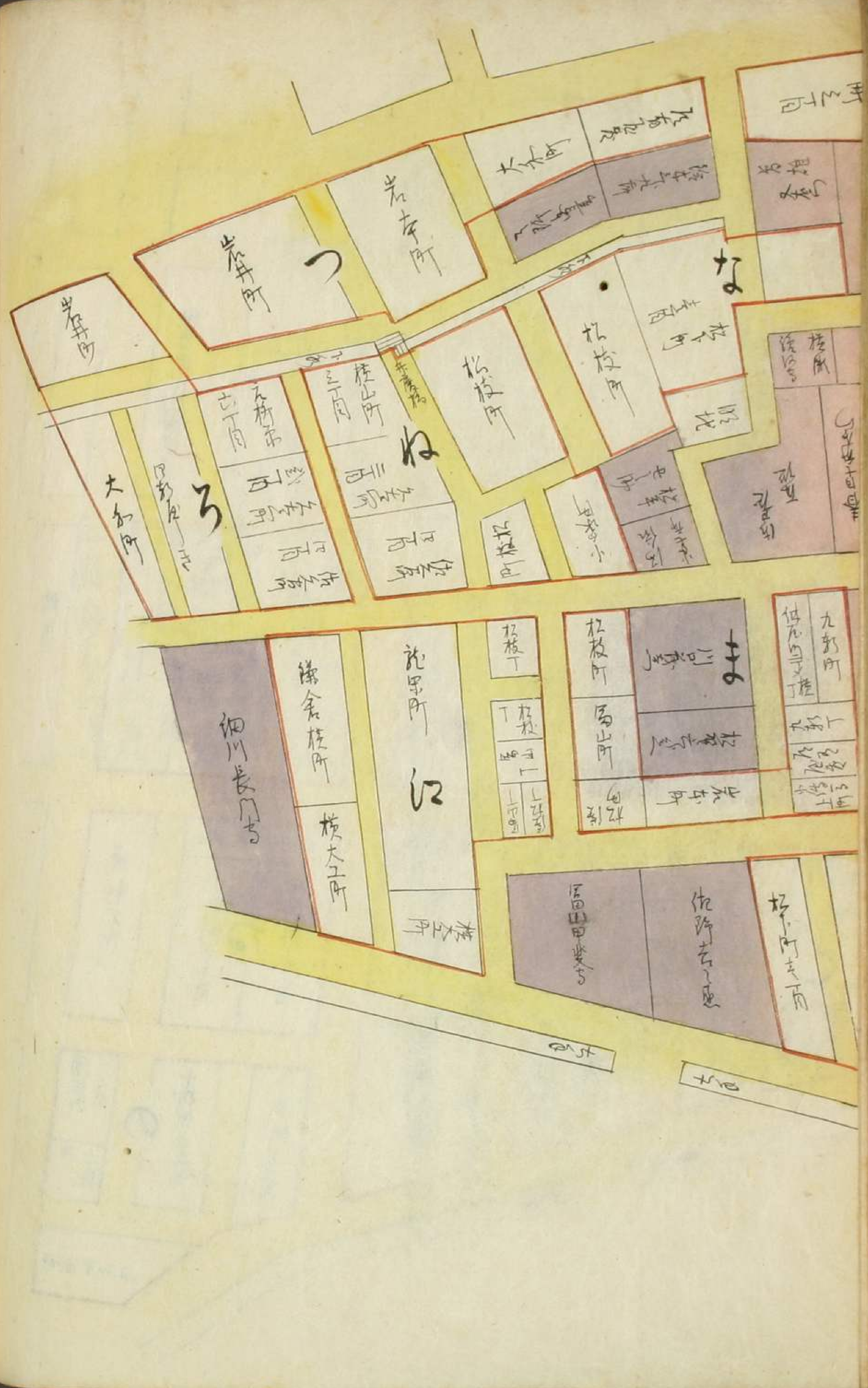
永富町壱丁目　江頭ゝ内
かノ持ゝ町人足
同弐丁目　江頭町内　たノ持ゝ町人足
同三丁目　同所　れノ持ゝ町人足
岩井町一丁目　なノ持ゝ町人足
同弐丁目　ねノ持ゝ町人足
同三丁目　れノ持ゝ町人足

養安院屋敷　永富町四丁目　松下町弐丁目　同三丁目　同新屋敷
銀冶町元地　新革屋町　新石町一丁目両側　元乗物町　新銀町
鍛子町　同新町　佐柄木町上裏　多町壱丁目両側　同弐丁目両側
黒大工町両側　連雀町
右町ゝ人足ハ鎌倉河岸[illegible]詰申候

越前守様出役与力
山崎助左衛門
出雲守様出役与力
服部仁右衛門
代り
三好助右衛門

紺屋町壱丁目同弐丁目 同横町 元乗物町 [illegible] 新石町壱丁目東側
塗師町 白壁町北 松田町 鍛冶町壱丁目 同弐丁目 鍋町西側 同西横町
同横町 通新石町西側 須田町壱丁目西側 同弐丁目西側 佐柄木町下
竪大工町東側 多町壱丁目東側 同弐丁目東側
右町々今只紺屋町弐丁目 屋小路々御中江

出雲寺様御役
　年寄
名主 高橋吉左衛門店
代り 伊田作右衛門店
代り 松浦源次郎店
代り 森田六郎右衛門店



町中ニおゐて自今自然火事有之候ハヽ早速声を立近所之者共
為知消留て十人組内并右隣近所之者共罷出候を
隣町之者ハ若キ者を以急度差出て可申付事
但附火いたし候者を見付候ハヽ右捕て差出候ハヽ御褒美被下候
不寄何者差図違ニて候者ハ早速火之元届之儀
届不及捨置候ニ付焼失いたし候者共ハ其品ニより過料可申付事
大勢罷出候ニ不及候事
右之通相極候上ハ付火之儀ハ勿論火事之儀も自然ハまちちかひなく隠し不
申候ハヽ町中共ニ不念ニ可申付者也
享保七寅年十一月

一 組合町々火消之儀ニ付向寄武士屋敷ニ火事有之候ハヽ早速
消ニ出候ハヽ不及其儀若大火之時ハ町人共
申候ニ付武士屋敷ハ火事ニ而も町人共罷出可消留候
士屋敷ニ而も御用ニ不依
右之通相触候ハヽ町中も可被守其心得之
寅十一月
右之通従町御奉行所被仰渡候条町中不残可相触候
名主請負判形致家主店借人迄不念無之様可申付候
十一月廿四日

覚

一 出火之節、道具等持出候事、風上ハ格別、風下ハ別而不及風筋ニ
家々之者共、火之元を用心いたし、風下之家ハ屋根之上へ人を上ケ、指
當り飛火之用心を以て、往来を塞候儀、可致旨相触候処、近年之
之輩、道具持出候を大切ニ存候、其上却而出火之
ものも出来、上町之義ハ不及申、風筋之者共、此間往来ニ手桶を出し候内
近所之者等、その道具を持運候而、其上路次口を塞候、以之外之事ニ候
道具類ハ、持運候儀、往来之邪魔ニ相成候、自今以後、家
持之者、前之町家、此間之火を相防、又ハ風下之家、飛火之用心不仕
家居之者共引越候儀、持運候儀ハ不届ニ候、右之通、急度相守可申候
八町之年寄・五人組、其町之名主迄も越度之沙汰有之候間、
町中急度可相触候

享保七年寅十二月

右之趣、前々も相触候処、今以猥成由相聞候、以後急度相守
中ニ茂、若相背候者於有之ハ、其者之儀ハ不及申、名主・五人組迄越度可申付候条、
町中不残可相知もの也

寅十二月

右之通被仰渡候間、町中家持ハ不及申、借屋店借裏々迄
不残様入念可申付候、若相背者於有之ハ、急度可申付候、以上
右之通町中相触候上ニ而、名主下判を取、来ル廿七日樽屋へ
可被差出候、以上

十二月廿五日

一 去ル十六日夜中火事之節、屋敷方火消之面々、町家を潰、大勢人数集候而も

他人殺并町人殺しもの盗賊滞留防者ハ搦取候而も其趣書付
可差出候者ハ取調候而宜もの夫々ニ而可申書出ハ異又何方之吏
奉行え可申遣又ハ其段書付て可差出者ハ右火事取扱一同可達
ハ申も不苦候以上

火事之節防方見廻六人之外ニ而仕候ハ
万石以上并寺社構之ハ万石以下之面々ニ大勢集り人数
有之候て町奉行有合之ハ其六人之外ニ見舞之防并消不申
事候ハ其趣者之中之通石川通江可申渡候ニ而仕候ハ

大嶋図書　之嶋清右衛門　赤井図書

村瀬伊左衛門　多谷源之助　竹中色水

覚

去町名主中ゟ十役候之所揃十四日出候時掛屋敷ニて其手ハ名主
其町ゟも月行事ニて可参候

八月十二日

掛屋敷之者捕之見候ニ付て一丁二丁目之両二ヶ所之火之見橋之家并見張ニ番人二人宛差置高き屋根之上ニ九尺之椅子仕掛置可申候
当分仕候様仕掛置候様可仕候

覚

一町々火之見之高ヶ所屋根柱拵之火之見候柱を九尺ニ定メ候而外見通
ハ積町之中合候家々通路遠く火之見上之下ハ其火之見之もの板木ニ
而為知可申候

一火之見之通路ニ風見て火之繕約之火之見番人壱人宛差置風之

喧嘩口論ニて書人之番人ハ火之見へ上り不申候 然共番人ハ火之番上り
候段町中へ為知申候
　但番人火之見ゟ下り候て右之段町中へ為知らせ申候
一火之見番上り候段番人為知候て組合之町々中合人足用意仕候
若火之見へ上候ニ付火事ニて候ハゝ早速消方大火ニ不成様ニ
可仕候
右之通町中急度相守可申候
　　亥八月
右者前々ゟ被仰出候所 上ゟ寺町中へ不残申付候書付之通町
中火之見喧嘩并番人持場之急度相守可申候 若相背候ハゝ
急度被仰付候為後日町中連判之手形差上申候以上
　　享保八年亥八月
御奉行所

八月廿五日
[illegible]年番名主共相談之上火之見[illegible]
通[illegible]仕候[illegible]九日迄[illegible]
一町方　　めへき
　　但[illegible]町[illegible]町[illegible]
一寺社[illegible]　[illegible]
一私領　　[illegible]
一川筋　　[illegible]
一[illegible]　　[illegible]
右[illegible]仕候[illegible]申候

覚

町々火之見高サ町家屋根棟ゟ火之見棟迄九尺ニ定式相成居候通
以相成候町々申合喰違番月替日詰々火之見上ケ可申事

一自今風烈之節ハ火之見江番人上り置可申候尤下ニ而ハ夫ゟ町内之者
遠方ゟも不相見多分出火之節ハ格子中裏屋通りハ往来之人々を以承
可申ハ右火之見当番人定之通風烈之節ハ往来之人を以火之見上ニ而
屋上ハ持場之人ハ火之見当番上ニ而ハ所町々柏子木を打出所よりハ家為
知セ申ハ風止当番人火之見之者ニ而ハ出所之町々へ為知セ可申事

但風烈之節与申候ハ、何れもねむり申ニ而も強き夜風ニ付前書之外之ハ
相心得可申ハ尤風烈ハ当番人上り更ニ相守候様厳重ニ可相守事

一火之見当番上り候所当番人為知参り候ハ、町々中合油断不仕不洩火
之見江人数差出シ早々消防ハ致候ハ、出シ場所へ集り候様不及申

一火之元番人居候内二三町見通之内煙立候所夜中不限随分念入見
候て火之見へ通り下ニて承之候番人右之通り早速承届ニ而其上月番
火之見へ定候て何方ニ而も相勤候町内へ為知可申候猶又八人之足音遣之
速々相勤申渡可申候

右之通り当八月御触風見番人候之儀ニ付前々之通相住候様被仰渡候
之通改御触候条急度相守可申候

十月

右御触之趣承届候旨町中不残申付候所相守火之元番人共
之見番人共御触之通随分念入相守可申候若相背候者有之候ハヽ
急度何様ニも可被仰付候為後日町中連判之以証文差上申候依如件

享保八年卯十月

三右橘屋次郎兵衛

覚

火事之節町人共家之建具等を大八ニ而浜地又ハ往還橋際道
筋之所ニ差置候故往還之道ふさかり難儀ニ付火事之節
破捨可申旨去ル卯年七月相触候然処今以不相止銘々八
建具等を取除往還ニ差出し取扱不申候ニ付往還之障
ニ成候ニ付向後火事之節取除候得共又ハ大八車ニ而持運
者有之候ハヽ早速可取上候事

但建具等ニ付道ニ出置候ハヽ当人之儀ハ不及申付置候段組頭ゟ可申付候

町人共急度相守可申候

右之通町中家持借家共急度相守可申候若相背候者ハ可為曲事
五人組之者迄も急度可被申付候

不届可被申付もの也

之月

右之通被仰渡候ニ付、上方町中家持共江申付候、店
借共迄申付候、尤此度被仰付候違背仕候者曲事ニ可
被仰付候間、町中不残此段急度相守可申候

享保九年辰之月

十八人年寄連判

御奉行所

享保十五年戌正月十日町中火消組合相改候趣

北奉行所諏訪美濃守様ニ而之通

覚

町中出火有之節風上風脇左右ニ町ツヽ都合六町火消相勤候得共、今度左之通
急度可申付候

一 右之外只今迄江戸町中組合七組ニ而一組宛人数相集、他組之家
屋敷ニ而茂定不申候処、今度一組ヲ町々之風下之町ニ而人足相集、其町々ニ而組合之者
ハ十組ニ割、組合之内風上風脇之町々ニ而組合火消相勤、其外組合
之内風下之町々ハ火元ニ不構、自分之町内を相防可申事

一 右之通申付候上ハ只今迄之人足多ク向後少ク成候ニ付、火之防可申事

一 火事有之節町々他組ハ境目迄相集、組合之内風脇并風下之方火之粉
防申候、尤月行事壱人火事場江罷出、右組合之内行届候人数境目迄

相届候様可申候

右之通向々え急度可申通候

戌正月

右之通町中不残入念可相触候以上

戌正月六日　町年寄役人

右触出之後十組之割ヲ以纏印面々へ為相渡被仰渡候

い組　一本石町より
日本橋向通之角迄

は組　一大伝馬町　堀江町辺
小網町之角迄

に組　一若松町　橋町
横山町　材木町辺

万組　元飯田町

よ組　神田辺

此度組之外之会所一組ニ而相渡候ハ当辺大組一組を一番組と申相渡候

但一番組より十番組迄有之

勿論右組合之者共組合申候ハ一番組之内より組合ニ而十組迄之分

御将基駒形ニ而相渡候

是ハてうちんの看板ニも会所へ付置し候

雛今用ひな

一大纏壱本　但纏下地紙塗惣銀箔之扇壱ツ馬簾ハ厚紙ニ塗惣
馬簾ハ壱ツ人数八十枚付紙胡粉ニ而馬簾紙箔ニ而ちらし之人ハ壱本太刀ニ
塗ちらし糊塗并色付惣仕立
　　代金壱両ト銀拾匁

かけ絵
一国壱本　但纏下地大絵布惣地さび仕立銀箔之人ハ壱馬簾ニ而
ん座敷ニ紙鏡馬簾ニ而馬簾八拾枚但長三尺ニ紙地ニ而大壱
ん紙箔之馬簾ハ壱枚馬簾太刀ニ塗ちらし世ちらし紙鏡惣仕立
　　代金壱両弐分

一大纏竹紙ニ而張但し有来りを張替
　　代八百五拾文

一大纏紙惣地塗本紙長鋲ニ而入而五本回りニ而雲鋲紙色但し

仕様書之通り
　代銭〆六貫五百文
惣〆合銭百貫八百文　錺〆六貫五百文　鉄物〆拾八貫文　外ニ銭百文　職人手間賃　金九両二分　入用

一　合銭百貫文　指口外
　大纏羽織長サ大サ一尺九寸五分之朱柄を用ひ手向ニ付羽織

一　纏持鉄砲之事
　大纏入りて羽織内外浅黄木綿を入

覚

火事之節ハ自身場所ハ勿論途中ニ而も其所ニ有合候者共火消働
後来之送かさ川迄之途中ニ而も出来之節ハ早速罷出候様可申付候
一　場所ニおゐて右近辺消防ニ出候者かさ川ニ有之候ハヽ消防ニ懸り候処
ニ而自分かさ川ニ而消防ニ罷出候ハヽ右之段屹度申付候
一　火消之節従来之者共相用ひ候ハヽ右之者共途中ニ而致候場所
人数之者共ニ而切候而も従来之通り申付候得共前々より右躰之儀
由ニ付右様之者ニ而も其向ニ而従前之通り右相心得罷出申付候
右之通り申合船ニ而防候様可申付候

十二月

右船之儀ニ付相届候処十一月中上ニ而方々市中ニ而右取扱不及申候座候
其上右仕来通り入念之上火事之節ニかさ川ニ而仕来之通り申合候得共

来ル陸ニ子孫成相立候者ちやニ而為後日町中連判ヲ以取致之候上
仍如件

宝暦四年戌十二月

御奉行所

北六ケ寺村庄屋

覚

一 田安殿御薬草場不依遠近ニ風無悪敷所ハ早々札付御薬草
場東之方御場ゟ表諸右御場所役所通ニ而見分可申候事

一 右御場所万一風無悪敷御薬草出来之節ハ早速村中ゟ申出候様
所役合之役人立会ニ而可申候事

一 寺社御用之者人立会之節ハ御札付ニ而差出候役人ニ而諸人立会之事
之外之者へ申聞候事

右之通町中会所ニ而書付ヲ以急度相守可申候以上

三十二月

御薬草場役所

田安殿御薬草場
　　　　今泉之所村
高月郡右衛門

役人
木村勘十郎
今沢喜右衛門
吉田要右衛門
石原彦六
増田彦之丞
石渡織右衛門

申渡

出火之節場所江出火之節役人方ニ附添火消共不礼法ニ成
雑言申掛ケ者も有之趣相聞不届之儀思召候以来右躰之者有
之候ハヽ吟味之上急度申付候又奥向ニ出方ニ出火
場所出火之節掛り之出来候ハヽ消方之根て役人
役之奥向之出方ニ差配并挑灯ニ而下名書付申渡之趣ニ而
又は人を付て申分之儀申渡候
右之通従町奉行所申渡候有之今町火消人不残承知
申渡候以上

九月

右之条御触書申渡候
火事場ニ出火之節奥向ニ而

一 納代燭及ひ油燈之書舎ニ差免用之事

一 丸紋小挑灯赤白花文竪筋

右挑灯之定紋仕付之事

火事附之事

一 上通之内合之六十人 去ル延享元子年十二月牢屋敷出火之節火防欠付寺社奉行役宅ニ而仕付上通り町之御番所勤申候

一 上通り町人足之不持之人

之所町年寄 養安院屋敷

同町 弐ヶ所 横寺町

同 之ヶ所

去ル宝暦十二年巳ノ四月四谷町大番屋出火之節火防組附

寺社奉行所江御届仕付

一 上通り町人足之不持之人

雑司ヶ谷町年寄 鷹匠町 横町先

同 弐ヶ所

右者宝暦十三年未九月組屋敷之面々人参壹貫場之取おとし
候ニ付防方之儀吟味之上被仰付候ニ付
右之外上納用定式之分付之旨被成候

未
十月廿三日

掛り所
名主　次郎
蒲倉所
月　平次郎

申渡

定火消人足之儀近年人数不足ニ相見へ其上組中間之儀与力同
心ハ不及申只火消之者共も者共ニ而も着方等多分之本場ニ而
之儀仕候着も有之根ニ而も此外年貢人足ニ而悪敷火消ニ掛り候而
かりハ大勢之儀も有之以来者定之人数之内ニ而も定之通
能く火消之者共先例人数之内掛り候先例人来根拠分ニ掛り与力同心
も火消之儀共之定之通ニ而人数掛り被仰付候付内ニ而相働候
消防之ニ而相違無之様相心得候而不時之儀ニ付仕様
度申付与力同心共も厳敷申付不相違之儀有之ニ付可申付世話之事
付組ニ而被仰付不届之儀有之候ハ、所方ニ而吟味之上厳敷申付
且又定火消清防之場所附ニ而定火消之者共も文字論申
之根本ニ而消防被仰付年貢人足何ニ而も遅滞無之様可被申渡候

右之通火消役々中被仰渡大名役場中間々候も右之趣ニ准し急
度申付候様可申渡旨被仰渡候

十月

定火消役場中間之儀、於火事場不埒之儀仕候者有之候ハヽ召捕
以来場所ニおゐて不埒之儀不仕候様、是迄申付置候火消役々中被仰渡大名
役場中間之儀も右之趣ニ准し急度申付候様申渡置候得共、今以火事之節
場所ニおゐて猥之儀有之、火消人数之内八分余町家ニ而候事共有之
火消人数之内も人数不揃之儀有之候ニ付、以来右之者共召捕候
右之外火付盗賊改ニ而召捕候者共町方同心共ニ申付候様被仰渡候
以而召捕候様被仰渡候

十月

右之通定火消役場之大名火付盗賊改江被仰渡候場所ニ而不埒

如何有之候ニ付召捕候ニ付、向後火事場ニ而不埒之儀
候ハヽ召捕候旨町火消共江も申付置候、於場所ニ而万一不埒之儀
も有之候ハヽ、召捕候旨町火消共江申付候様可相心得
候得者、乍此上心得違無之様相慎可申候

十一月

右之通従町奉行所被仰渡候ニ付、火消共向後於場所ニ万一不埒
之儀有之候ハヽ召捕候間、火消共互ニ申合場所之儀相慎可申
町中火消共ニおゐても心得違無之様、右之趣名主共ゟ火消共江申付、
火消共江申付候、尤火消共之儀ハ名主共ニ而取締申付候様可致候
右之趣組合之内町中江不洩様可相触候

十一月

右之趣町中可触知者也

町年寄役所

定火消役場中間於火事場不埒之儀有之候ニ付、兼而其先達而被仰渡候得共、今以

類焼之火事場江不限町屋根江上り不相成候ニ付而ハ定火消役場中間江相掛申間敷候
并候節ハ根及ひ出火共以来右之趣を相守り可申事吟味之上相成候ニ付火消役中間
右以後火消共町屋根より不相成候ニ付御場所ニ而定火消役場中間ニ而も
右捕候ニ付其余之者共ニ而手付ニ而町人共より太切之儀有之候ハヽ当座ニ差構候も在之
十付火消役より以来右之趣を候及承知ニ付而町役人ニ取計ニ相違無之旨相心得候

十月

右之通此度ニ而付候与力同心火事場不限町屋根より定火消役場中間ニ相掛り候ニ付
候ニ付而ハ右ニ付又ハ定火消役場中間江不相成火事場江不限町屋根より相掛り候段ハ右捕方
町人共之儀者右太切之儀ニ而何ニ而も当座ニ不相成候間申達候節ハ大切之段相心得
右之通申渡ニ

十一月

右之通此度町年寄より申渡候ニ付組合ハ勿論町中ニ而も相守り可申者也

十二月

中渡

万組　よ組　い組　は組　ろ組　せ組
と組　め組　も組　ま組　や組　く組
内組

右町々
名主共

其方共支配町々之儀は曲輪近辺之事ニ付出火之節防方
当町火消方組々之儀は曲輪之事ニ付よ組之儀は組々武家
ろ組よ武家せ組ニ武家ニも組よ武家め組よ武家ゑ組ハ武家ま組武家や組
武家之組武家内組之者共儀ニ渡置候者ニ火之節右用向之節ニ付
御場所不残候共之儀不相成候ニ付而ハ右用ニ而右者共
仕来之通り渡置候儀者以来町内ニ而右之節ハ付添可申候
曲輪近辺之事ニ付消防之為ニ渡置候事ニ付而者

来ル作法之儀者清世話ニ而渡候処又候右出入之儀ニ付上ヶ候掛樋
有之ニ付ま組より相渡置候処右之作法ニ付清々相世話ニ而候
明和元申年十二月廿五日
右ニ付組合者ニ而番様御番所ゟ右組合者出し可申旨被仰渡候
龍吐水出来ニ付今日　寺社御奉行様御番所ゟ上組々ハ先ニ二柄出候
而者私共一組ゟ名主一両人月行事人足召連罷出候右ニ付村方ゟ
被仰渡候ニ付先達而申合置候通組合人足召連罷出候ニ付右ニ付人足
番之義毎月二月中より相勤申候
右今日人足出候入用ニ付組一同ニ而割合ニ而仕候趣可申候
出候右龍吐水ニ而出候
一　五番組之一柄ニ而出候而ハ龍吐水相成申候二月廿日出候

三番組之二番一番出候下知被成候仍而二月廿日三番寄合在之付
当番出候処右出之渡候出候合ニ而可被成候
右龍吐水出候迄仕候以上
二月廿九日
杉　平次郎
竹内　吉右衛門
町々人足被仰付候町々ゟ人足共相用候ニ付世話仕候ニ付取計
之通ニ而も申候ニ付申合
右候ニ付大井与兵衛
組合町々之通り付而申候他地組合
右之通出候ニ付町々ニ而申渡候
申二月九日
申ノ
年番

一先達而本文記候趣ニ付一柄を取払ひ出役いたし候旨
之仕法ニ付明き申セ書付ヲ差出シ支配下ニ而此度遂せ出候
此段以上

二月十五日

壬申年
年番

右之趣ニ付人足御差遣之儀申来候ニ付其段御請申上置候
右ニ付明ケ六ツ時ゟ出張いたし候事

一御曲輪内西丸下之組町火消人足出役之儀ニ付
甲斐守様御組
所田十太郎 下役 関(?)孫太郎
東條英(?)助 下役 浜(?)本定八
近藤弥三郎
松浦源之助
大隅守様御組
佐野五郎左衛門 下役 佐久間儀左衛門
下村孫助 下役 五十嵐又助

右組人足

一三河町壱丁目十五人 一表神保小路三人 一通新石町十五人 一同横町三人
一同代地四人 一鍛冶町壱人 一同代地六人 一大和町十二人 一松下町壱丁目
八人 一同弐丁目四人 一同三丁目四人 一四軒町四人 〆七十八人

柳沢平次郎

一永富町壱丁目十人 一同弐丁目六人 一同代地弐人 一同三丁目十四人 一同
四丁目五人 一皆川町壱丁目八人 一同二丁目十人 一同三丁目五人 一三河町
弐丁目十五人 〆七十五人

一雉子町十五人一四軒町弐人一三河町三丁目十五人一同裏町弐人
一同四丁目十一人一同裏町弐人　〆四十七人

礼七六右衛門

一蝋燭町六人一冨山町六人一新銀町十五人一横大工町七人一同代地弐人　〆三十六人

赤坂市右衛門

一新革屋町（拝借地代）十人一塗師町三人一元岩井町東側代地四人一同西側代地三人一兵庫屋敷壱人一（元岩井町兵庫屋敷）拝借地三人一新石町壱丁目十六人一野沢屋敷弐人　〆四十弐人

宮田治右衛門

一多町壱丁目十六人一竪大工町十六人一白壁町上下十五人一鍛冶町壱丁目十五人　〆六十二人

中村庄五郎

一多町弐丁目十六人一連雀町十五人一鍛冶町二丁目十五人　〆四十六人

小藤権右衛門

一佐柄木町十三人一同代地三人　〆十六人

河津十兵衛

一通新石町十五人一須田町壱丁目八人一同弐丁目十五人一鍋町十五人一同西横町四人一同東横町四人一同小横町四人
一松田町八人　〆七十三人

佐柄木弥太郎

一小柳町壱丁目十七人一同弐丁目十六人一同三丁目十四人　〆四十七人

竹内若右衛門

一 平永町 十五人 〆

一 富山町壱丁目弐丁目 十五人 一 永井町 五人 一 岩町 弐人

〆 廿弐人

一 銀町壱丁目代地 十五人 一 同弐丁目代地 十五人 一 同 横町代地

七人 一 東伯鍛冶 三人 〆 三十八人

一 銀町三丁目代地 十六人 一 九軒町代地 八人 一 小泉町 三人

〆 廿七人

岩村庄之助

久保金十郎

飯塚庄蔵

石川高次郎

橋本源之助

一 三嶋町 四人 〆

一 長門町 八人 〆

一 本浪町 [illegible] 弐人 〆

一 濱松町 三人 〆

一 佐久間町四丁目代地 七人 一 元柳原六丁目 三人 〆 十人

一 久右衛門町弐丁目代地 七人 〆

大久保藤之助

岩瀬勘之助

松田吉次郎

行岩仁之助

吉村源太郎

村田平太郎

一 横山町三丁目代地 四人 〆

一 元岩井町 十七人 一 岩本町 八人 一 久右衛門 四人 一 小伝馬
上町 四人 一 柳原岩井町 八人 〆 三十三人

小西喜[illegible]
宮辺又四郎
月行事 持

一 松枝町 十四人

[illegible]代地分
今川橋川岸通り四
一 本銀町 今新右衛
一 佐柄木町 [illegible]代地分 弐人
一 同 横町

元岩井町河岸通り四
一 小伝馬上町
一 久右衛
一 岩本町
一 柳原岩井町
一 [illegible]町弐丁目 横町代地
一 同 三丁目

[illegible]代地分 十人

明田
佐柄木
石川

宮辺
石川
橋本

上組人足高
〆七百弐十人

元飯田町御薬草欠日
一三河町三丁目十五人 一養安院屋敷三人 一三河町十五人 一同
三丁目十五人 一同四丁目十二人 一横大工町七人 〆六十四人
右之者共三郎右衛門薬草場西門より清水薬草場役人元方囲まて

右御薬草場役人
今井三郎右衛門
高月政右衛門
下役
石橋喜六
太田要右衛門

紺屋町三丁目朝鮮種人参売弘所欠日

一鍛冶町壱丁目十五人 一同弐丁目十五人 一鍋町横丁目共七人
〆五十七人

龍吐水小組合寄屋敷欠日番
壱番
一元岩井町十二人 一岩本町八人 一乃有屋敷弐人 一小伝馬上町
四人 一大和町十二人 一佐久間町四丁目代地七人 一久右衛門町弐丁目代地
七人
小伝馬上町
乃有屋敷
岩本町
柳原岩井町
拝借地
七人

緑町弐丁目横町
同三丁目
〆六十人
弐番
一緑町一丁目十五人一同弐丁目十五人一同横町七人一同三丁目
十六人一九軒町八人 〆六十三人
三番
一新石町壱丁目十六人一鍛冶屋敷二人一白壁町十五人一柳原岩
井町八人一松下町壱丁目八人一龍閑町代地七人一鎌倉横町代地
三人一元柳原六丁目三人一横山町三丁目代地弐人一元乗物町（壱屋敷）河岸代地
三人 〆七十三人
四番
一小柳町四十七人一亀井町十五人 〆六十弐人
五番
一通新石町十五人一須田町壱丁目八人一永富町壱丁目十人一同
二丁目代地八人一同三丁目 十四人一同四丁目五人
〆六十人
六番
一鎌倉町十五人一同横町三人一龍閑町壱人一四新屋敷
四人一新石町十五人一三河町三丁目裏町二人一同四丁目裏町
二人一四軒町二人一皆川町壱丁目八人一同弐丁目十人一同
三丁目五人 〆六十七人
七番
一多町二丁目十六人一連雀町十五人一新銀町十五人一佐柄木町

十三人 一塗師町三人 〆六十三人

八番

一多町壱丁目十六人 一竪大工町十六人 一蝋燭町六人 一関口町六人 一新革屋町十人 一松下町二丁目三丁目八人 一元乗物町西側代地三人 〆六十五人

九番

一富山町十五人 一平永町五人 一岸町弐人 一三嶋町四人

一黒門町八人 一松田町八人 一松枝町十四人

一元乗物町東側代地四人 一兵庫屋敷三人

佐柄木町代地
今新道
音羽町

紺屋町弐丁目拝借地
同 横町拝借地
佐柄木町拝借地
今川町拝借地
十一人

〆七十弐人

一須田町弐丁目 十五人

是ハ筋違橋門廣小路ゟ火之見札ゟ銭ニ百龍吐水南角…
外…
他大…